

第3回旭川駅周辺かわまちづくり懇談会 議事要旨

日 時：令和4年11月2日(水) 18:30～20:10

場 所：旭川市職員会館3階6号室

出席者：9名（出席者名簿のとおり）

議 題：前回懇談会の振り返り、かわまちづくり計画(案)、今後の進め方

1. 議事

(1) 前回懇談会の振り返りについて

事務局(旭川市)から前回懇談会の概要等の説明を行い、出席者の了承を得た。

(2) かわまちづくり計画(案)について

事務局(旭川市)からかわまちづくり計画(案)の説明を行い、出席者から以下の発言があった。

【参加者A】

大雪山連峰という表記が正式名称か、事務局で確認されたい。

【参加者B】

土地利用・開発行為の状況や来訪者の数値目標と、現在実施されていない「石狩川フェスティバル」がリンクしていないと感じた。イベントが過去形になっているので、旭川市のまちづくり計画との一体性という意味では弱いと思う。

【参加者A】

リベライン旭川パークは、夏まつりのオープニング、冬まつりの会場、音楽大行進等で有効利用されている。

【事務局(旭川市)】

「石狩川フェスティバル」は、河川管理者、地元、事業者の三者が連携し、川を使って取り組んだ好事例として挙げている。通年で河川敷において複数のイベントを実施しているので、改めて確認した上で、バーサーロペット・ジャパンや冬まつりなどの追加修正案を提示したい。

【進行役】

これまで実施済みの関連施策として記載している整備事業の完了年次は年度か。

【事務局(旭川市)】

確認して修正する。

【進行役】

説明資料で川沿いを通る新たなサイクリングルートが示されているが、変更したのか。

【事務局(旭川市)】

かわまちづくり計画としては永隆橋通が本ルートとなるが、これまでのご意見を踏まえ、支線ルートとしてマップで示している。

【参加者C】

推進体制(案)のレンタルサイクル事業の関係団体等として「サイクリング団体」の表記があるが、観光で来た利用者に対するガイド等を想定しているのか。

【事務局(旭川市)】

具体的な団体は想定していないが、サイクルマップの作成やサイクリストの自転車故障時の対応等について、関係する団体や事業者と連携しながら取り組んでいくイメージを持っている。

【参加者C】

サイクリストへの紹介等の役割分担は、新たにできる検討会になるのか。

【事務局(旭川市)】

推進体制(案)の一番上にある検討会が中心となって、色々な施策を検討していくことを想定している。

【参加者B】

民間業者と連携して河川空間の利活用を図ることになっているが、ソフト施策として挙げられているサイクリング大会や、キッチンカーによる飲食販売等について、旭川市、旭川観光コンベンション協会、大雪カムイミントラDMO、ミズベリング旭川がどのように連携していくのか。最終形はこのような形になるのかもしれないが、スタートアップでつまづかないよう役割分担を明確にしていく必要がある。旭川市と民間業者の連携のルールやアピールの部分で、民間業者とタイアップして市が実施する支援・連携施策について旭川市は具体のイメージを持っているのか。

【事務局(旭川市)】

具体的な役割分担については、来年度、検討会で関係する方々と議論していきたいと考えている。かわまちづくりの中で、行政が商売・イベントを直接展開するのは考えづらいので、民間事業者が主体となって取組を進めていただくべきだと思うが、これまでの事業の中で旭川市がスタートアップから支援している事業がいくつかあるので、官民連携という形での協力は今後も当然続く。旭川市の関係部局が動きやすいように事務局が役割を担っていく必要があると思う。

【参加者B】

例えば、河川敷でサイクリングイベントを実施する際は、補助金等の支援といった仕組みが理想だと思う。事業者がキッチンカーを集めてやれと言われても、その原資の捻出は困難。

【進行役】

推進体制としては、旭川観光コンベンション協会、大雪カムイミンタラ DMO、ミズベリング旭川が動き出すのを黙って待つのか。検討会が中心的な役割を果たして、こんなことをやりたいといった音頭を取るのか。

【事務局(旭川市)】

単に民間に話を持ちかけるということではなく、あくまでも検討会で皆さんと一緒に推進体制や事業実施に関する議論を深め、動きやすい環境を作っていきたい。

【参加者 A】

前回懇談会の意見に対して「アクティビティの拠点は民間事業者による対応」となっているが、旭川観光コンベンション協会で実施しているレンタサイクルについては、既に旭川市から借りている施設が狭隘になっている。改善要望をこれから上げていく考えであるが、民間事業者による対応は適切でない実態にある。川下りの拠点としてボート格納庫等の整備が必要だということになれば、実際に対応できる事業者は出てこないと思う。一番大事なところだと思うので、ある程度きちんと議論して進めなければ、河川環境や利用普及の推進には繋がってこないと思う。旭川市が補助金を用意して民間事業者が実行する手はあるのかもしれないが、レンタサイクルに関しては今の実態に合っていない。

【進行役】

この推進体制(案)を見直す必要があるのではないかと。各機関を繋ぐようなソフト施策のようなものが必要になると感じる。

【参加者 D】

DMOが小学校の川下り授業を実施した際、交通事業者と調整して、子どもたちをピックアップしたり、ボートをトラックで輸送した。この推進体制(案)では、交通事業者や小学校との繋がりが分づらく、検討会での調整も難しいと思う。

【参加者 C】

この推進体制(案)が草の根的に動くのを期待するのか、それとも、どこかが計画を策定し、色々な提案をして推進していくのか。草の根が動くのを待っていたら、例えば小中学校がアイヌの水辺教育をやると言い出さない限りは実行できない。

【事務局(旭川市)】

推進体制(案)を再整理する。草の根からどんどん入っていくのが一番望ましいが、草の根が動くのを待つという話ではないので、当然何らかの働きかけや動機づけが必要だと思う。実際に各団体がどういう動きをすることで事業が回っていくのか、考え方が進んでいくか、関係性がもう少し見えるような形で提示する。

【参加者 E】

私が過去に携わった他地域でのかわまちづくりでは、基本的に民間事業者が先導で市の職員が窓口となり、制度面で行政上の制約について対応してもらう形で社会実験を進めていた。まずは形にするということにこだわったので、草の根というよりも、主体になっている民間事業者が出したイベント等のアイデアに対して行政がフォローする形をとっていた。

【参加者 F】

20 年以上前に「石狩川いかだ下り」を開催した際は、旭川市、旭川商工会議所、旭川観光コンベンション協会で組織する旭川夏まつり実行委員会が、警備やライフジャケットの準備、河川使用許可を申請した。みんなから色々なアイデアが出てきて、最終的に公の団体が実行委員会を作って各行政に申請する形にしなければ難しいと思う。やはり許可をもらうのが一番大変である。

【進行役】

いずれにしても民間事業者の発想がないと動かないので、それを喚起する、引き出すような仕組みがないと活発に行われているように見えないところもある。色々な関係団体等からアイデアが出てくるような状態を作るのが大事だと思う。

【事務局(旭川市)】

今回の意見を踏まえて、改めて事務局で整理をした上で、各委員の皆様に修正案を送らせていただく形にしたい。

【参加者 B】

計画書の中に目標設定及び効果に関する記載があり、年間 1,500 台のレンタサイクルの貸出を目指すところがあるが、定量的な効果を見込めるという部分が弱いと思う。

【事務局(旭川市)】

数値目標については、既存イベントの観光入込客数やレンタサイクルの貸出台数等をベースに設定している。

【事務局(旭川開発建設部)】

目標設定及び効果については、近年の国土交通省におけるかわまちづくり計画の審査の中でクローズアップされており、従来求められてこなかった視点である。今回の内容で、今後の国土交通省の事前ヒアリングを受け、その中で指摘があった場合は改めてご相談させていただきたい。

【参加者 F】

この地域は、高低差がなく河川敷がたくさんあって、サイクリングロードが整備されているので、商品価値が高いエリアだと思う。ハード施策が実施されれば、東南アジアやヨーロッパからの観光客がサイクリングに大変魅力を感じるのではないかな。

【参加者 G】

計画では、令和 6 年度から検討や設計が始まって、令和 7 年度から工事となっているが、令和

5年度までに許可を受けてから実施するという考え方か。例えば、橋梁標示については予算があれば先行して整備するなど、部分的にでもこれ以上早くなることはないのか。

【事務局(旭川開発建設部)】

河川管理者側の整備内容では、令和5年度に計画登録されてから予算要求を始めて、その後設計に着手する。取付道路や路面標示は詳細な設計が不要なので、予算措置されれば、令和6年度からでも工事着手は可能である。

【参加者H】

児童生徒がサイクリングやジョギングのルールを守らないと、事故が多々起きると思う。自転車保険の加入と並行して使い方や交通ルールを徹底しないと、被害者にも加害者にもなり得るので、そういうところを手厚くする必要があると思う。

【参加者F】

堤防を散歩している時に、後ろから自転車が来ても分からないことが結構ある。ライトや反射板をつけていない人が多いので、事故を防ぐためには、通行ルールづくりと走行レーンの分離が必要だと思う。

【参加者H】

川の整備に関するPRをすれば、中学校よりも小学校の方が需要はあると思う。自分たちの教育課程と一致するところがあれば利用しようかなという声がたくさん挙がると思う。

(3) 今後の進め方について

事務局(旭川市)から今後の進め方等に関する説明を行い、出席者から以下の発言があった。

【進行役】

今後、国土交通省の事前ヒアリングやパブリックコメント等があるので、計画内容を固めておく必要がある。本日出していただいたご意見等の修正を事務局に一任し、計画の大枠について承認いただきたい。

※異議なし

【進行役】

今回の懇談会で、本日のご意見等を踏まえた計画書やパブリックコメント等の結果を提示してほしい。

【事務局(旭川開発建設部)】

いただいたご意見等については修正等を含めて検討し、その修正案をもって国土交通省の事前ヒアリング資料、あるいはパブリックコメントの資料とさせていただく。次回の懇談会は来年2月を予定しており、開催等については改めて事務局から連絡する。

以上